

あした 未来へつなぐ

【自然環境の保全】

環境保全のために私たちができること。
この北海道で地域と人のために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来(あした)へつなぐ」ために。

写真・文＝本間 吾里砂



↑十勝岳連峰を望むフットパスコース。「JR北海道かもふらのの森」のコースは、さまざまな景色が楽しめる、比較的長距離の通好みのコースとか(上)

←上富良野町から提供されたロゴを使った看板。道しるべにも

CO₂削減、フットパスコース設定…。 大きな可能性を秘めた「JR北海道かもふらのの森」

空

気中のCO₂を吸収し、酸素に換えてくれる森林は、地球温暖化対策に欠かせない存在です。

JR北海道が保有する「JR北海道かもふらのの森」でも、CO₂削減を目的の一つ

に五カ年計画で富良野地区森林組合の協力を得ながら森林整備を進めています。JR上富良野駅から車で約

二〇分のところに位置し、シラカバ、イタヤカエデ、ケヤマハンノキなどの広葉

樹が繁る天然林と、カラマツ、トドマツなどの針葉

樹を植樹した人工林からなるこの森は、札幌ドーム約五〇個分に当たる二百七十一畝の広さ。隅々まで太陽の光が行き届き、木々が均一に生長できるよう、平成十九年度から二年間で約百二十畝の間伐を実施し、今年度は約四十一畝の間伐を予定しています。

この森のCO₂吸収量は試算値で年間約三百二十七炭素ト。北海道が調査した平成十八年度の道民一人当たりのCO₂排出量が年間約三・一炭素トであることから、約百五人分のCO₂排出量に相当します。北海道の人口からすれば微々たるものに過ぎないかもしれませんが、こうした地道な活動を重ねることが自然を守り、地球環境を守ることにつながるのは確かな事実です。

地球温暖化対策の一つとして日本でも進められているカーボン・オフセットとは、

CO₂などの温室効果ガスを森林経営や植林、クリーンエネルギー事業などで相殺する取り組みのこと。その対象として認証されることも「JR北海道かもふらのの森」の大きな目標です。

一方、森林内の散策路は、地元の愛好会によりフットパスコースに設定されました。今年三月には上富良野町との話し合いにより「かもふらの」のロゴを使用した看板を三カ所に設置。自然景観を楽しみながら歩く道を意味する「フットパス」は北海道でも人気が高まっており、町内には十一のコースがあります。*今年八月には「全道フットパスの集いinかもふらの」も開催される予定。このほか、地元自治体の協力のもと植樹を中心としたレクリエーションの開催なども検討されており、環境対策としてだけでなく、この森が持つ可能性は大きく広がっています。